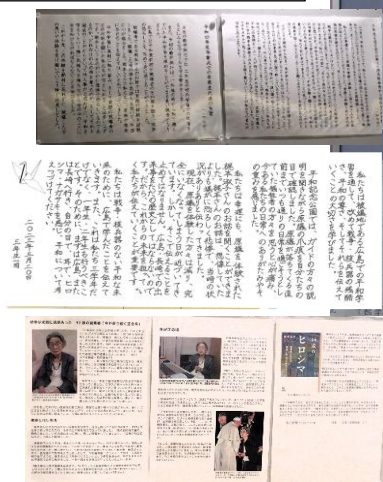


世田谷区立砧中学校令和4年度卒業生「平和の誓い」展示

(エコルマホール・ホワイエ 9/3 西河原公民館ギャラリー 9/4-11)

在校生へのメッセージ



平和の誓い

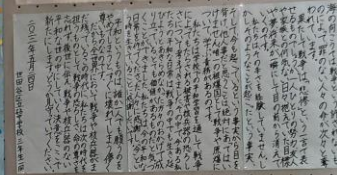
砧中学校 令和4年度 卒業生



平和学習の年表



広島原爆死没者慰霊碑にささげられたメッセージ



中段: 広島を訪れ、被爆者から話を聞き、在校生に向け二つ目のメッセージを作成。

令和4年度卒業生216人一人ひとりが切り抜いた人型を繋げ、虹に表しました。その下に詩が創られました。

平和学習の発表会等

下段: 被爆者梶本淑子さんへのインタビュー記事【毎日新聞 2023/8/15】

下: 作詞に大熊実行委員長が曲を付けたことで合唱曲「虹をつなぐ」が完成。その経緯についての毎日新聞のインタビュー記事(2023/8/15)



今私たちは平和な暮らしをしている
みんな気にしていないかもしれないけれど
でも海の向こうでは戦争が続いている
みんな見ているだけかもしれないけれど

君たちが大人になったら？
このままの世界でいいの？

戦争が奪った大きなものを
文字で教で写真でそして声で
伝えてもらった

次の世代へ伝えていくと 私たちは話合った

だから君たちにも知ってほしい

戦争のこと 平和のこと

私たちと同じ未来を担う君たちに

私たちが平和をつくらう

一人だって集まればきっと

大きな力になるから

みんなで虹をつないでいこう

明日が今日よりもっと

平和な世界にならうように

三年生一同

広島原爆死没者慰霊碑にささげられたメッセージ

一九四五年八月六日、この広島に原爆が投下されてから七十五年以上たった現在でも、海の向こうでは戦争という許されないものによって、罪のない人々の命が次々と奪われています。

果たして戦争は「悲惨」という一言で表せるものでしょうか、一人ひとりの努力、友人や家族との何気ない日々抱えていた目標や夢、将来が一瞬にして目の前から消えていくのです。

私たちはその辛さを経験していません。しかし、そのようなことが起こったという事実、そして、今も起きているという事実から目を背け、他人事だと思ふことは絶対にあてはけません。唯一の被爆国として戦争や原爆について、学ぶ責務があるのです。

私たちは学校での平和学習を通して戦争によってもたらされる被害や核兵器の恐ろしさについて考え、きました。その中で、今ある私たちの平和な日常は、戦争の中でも生き延びようとあきらめなかった方々のおかげで成り立っているとしても、価値があるものだと気づくことができませんでした。私たちは、今の平和な日常を作ってくれた人々に感謝し、今という時を生きていることに感謝したいです。

平和というものは、誰か一人でも願うのをやめてしまうと、すぐに壊れてしまう儚く尊いものなのです。

だから、全世界において戦争や核兵器がまだ残っているこの時代に、私たちは次の時代を担うものとして、戦争の恐ろしさ、命の尊さを忘れず、後世に伝え、戦争や核兵器のない平和な世の中にしていく決意をこころで新たにします。どうか見守っていてください。

二〇二三年五月二四日

広島を訪れ、被爆者から話を聞き、作成された二つ目のメッセージ

私たちは被爆地である広島での平和学習を通して、改めて戦争・核兵器の残酷さ、平和の尊さ、そしてそれらを伝えていくことの大切さを学びました。

平和記念公園では、ガイドの方々の説明を聞きながら原爆の爪痕を自分たちの目で確認しました。原爆が落ちてくる直前までいつも通りの日常を過ごそうとしていた犠牲者の方々を思うと心が痛み、今ある私たちの日常へのありがたみやその重みを感じました。

私たちは幸運にも、原爆を体験された梶本淑子さんのお話を聞くことができました。梶本さんのお話は、想像していたよりも爆音に悶ろしく悲惨で、当時の状況がありありと伝わってきました。

現在、原爆を体験した方々は減り、完全にいなくなってしまう日が近づいてきています。しかし、そこで伝えることを止めるはなりません。広島・長崎での出来事をただの歴史としてはならないのです。だから、これからの未来を担っていく私たちが伝えていくことが重要です。

私たちは戦争・核兵器のない平和な未来のために、広島で学んだことを伝えていきます。また、これは私たち三学年だけでなく、一年生、二年生も行おうべきことです。そのために、まずは広島、または長崎へ行き、自分の目で、耳で、ヒロシマ・ナガサキを感じ、平和について考えつづけてください。



二〇二二年五月二〇日

三年生二組